

SRS SRSエアバッグ

目次

作業上の注意 AIRBAG	SRS- 2	両席（運転席及び助手席）SRSエアバッグシ	
概要	SRS- 2	ステム故障診断 AIRBAG	SRS-10
構成部品脱着時の注意	SRS- 2	正確、迅速な診断のために	SRS-10
SRSエアバッグ整備上の注意	SRS- 2	診断フロー	SRS-10
ハーネスの識別	SRS- 2	問診	SRS-11
ハーネスの整備	SRS- 2	診断前点検	SRS-11
スパイラルケーブルの脱着	SRS- 3	運転席ドアスイッチ系統の点検	SRS-11
SRSエアバッグの取扱上の注意	SRS- 3	エアバッグ警告灯点検	SRS-12
誤作動防止のための注意	SRS- 3	CONSULTによる故障診断	SRS-13
性能保持のための注意	SRS- 4	概要	SRS-13
作動（展開）後の注意	SRS- 4	自己診断操作要領	SRS-13
作動（展開）後の交換部品	SRS- 4	自己診断機能による故障診断	SRS-16
準備品	SRS- 5	概要	SRS-16
特殊工具	SRS- 5	エアバッグ警告灯による故障診断	SRS-16
スパイラルケーブル	SRS- 5	自己診断の消去方法	SRS-18
SRSエアバッグ AIRBAG	SRS- 6	現象別の故障診断	SRS-19
エアバッグセンサーユニット	SRS- 6	故障診断早見表	SRS-19
SRSエアバッグシステム故障診断		現象1 エアバッグ警告灯が点灯しない	
AIRBAG	SRS- 8	（常時消灯）	SRS-19
作業前注意	SRS- 8	現象2 エアバッグ警告灯が消灯しない	
準備品	SRS- 8	（常時点灯）	SRS-19
特殊工具	SRS- 8	現象3 エアバッグ警告灯が点滅する	SRS-20
一般計測器	SRS- 8	構成部品点検	SRS-21
システム概要	SRS- 8		
構成部品取付位置	SRS- 9		
回路図	SRS- 9		

概要

ここでは、従来よりの変更点に伴う点検整備要領を記載する。なお、その他の整備要領については、「スカイラインR33型整備要領書（A006022）及び追補版Ⅱ（A006026）SRS編」を参照のこと。

構成部品脱着時の注意

SRSエアバッグ構成部品脱着の際は、以下に示す作業を必ず事前に行うこと。

1. キースイッチをOFF位置にしてバッテリーからマイナス、プラスの端子を外して、3分間以上放置し、エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路（コンデンサー）に蓄えられた電気を自己放電させる。
2. SRSエアバッグ構成部品脱着時、運転席側はステアリングホイールロアリッドを外し、エアバッグモジュール下側のハーネスコネクタを外す。助手席側は助手席アンダーカバーを外し、ハーネスコネクタを外す。

注意：作業時、身体はエアバッグモジュールのパッド正面ではなく、極力エアバッグモジュールの側面方向に置くこと。

3. ステアリングホイールプーラー（特殊工具：ST2718 0001）を使用してステアリングホイールを取り外す。

SRSエアバッグ整備上の注意

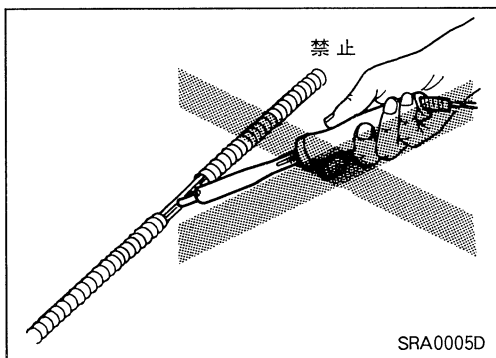
ハーネスの識別

SRSエアバッグシステム用のワイヤハーネスは、コネクタ首下部に黄色の識別テープが巻かれており、

- ステアリングホイール
- ステアリングコラム
- インストルメントパネル
- センターコンソール

に配索されている。

これらの部分に関する作業時には次項のSRSエアバッグ取扱上の注意を必ず守ること。



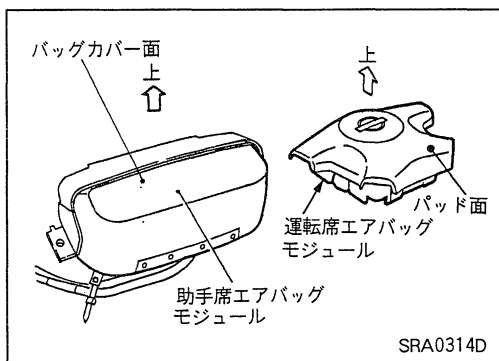
ハーネスの整備

1. SRSエアバッグシステムのワイヤハーネスに損傷、折損等が生じた場合、ハンダ等で修理をせず必ず新品と交換すること。
2. ワイヤハーネスが噛み込んだり、他の部品と干渉したりしないように取り付けること。
3. アース部に汚れ、塗装の付着がないことを確認して取り付けること。
4. アース不良はSRSエアバッグシステムの作動不良の原因となるので十分注意すること。

SRSエアバッグ整備上の注意 (続き)

スパイラルケーブルの脱着

SRSエアバッグシステムの車体側とエアバッグモジュール側とはスパイラルケーブルにより電気的につながっている。従って、取付方法のミスによりスパイラルケーブル内のケーブルを破断させると、SRSエアバッグが必要なときに作動しないので、「スパイラルケーブル」の項の指示に従って作業すること。



SRSエアバッグの取扱上の注意

誤作動防止のための注意

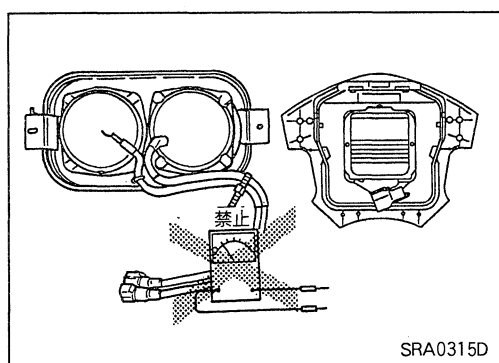
エアバッグモジュール単体状態

- エアバッグモジュールを置くときは、必ずパッド面及びリッド面を上側に向けて置くこと。
(パッド面及びリッド面を下にして置くと、万一エアバッグが作動するようなことがある場合、エアバッグモジュール本体が体に当たる恐れがあり、危険である。)
- エアバッグモジュールの分解、インフレーターの分解は絶対に行わないこと。
- エアバッグモジュール裏面のコネクターへの異物（ドライバー等）の挿入は行わないこと。(静電気による作動防止)
- エアバッグモジュール裏面のコネクターにサーキットテスターを当てての導通チェックは絶対に行わないこと。(サーキットテスターの微電流による作動防止)
- 90℃以上の高温環境に置かぬこと。

車両取付状態

- エアバッグモジュール及びエアバッグセンサーユニットのチェック時にサーキットテスターを使わないこと。(サーキットテスターの微電流による作動防止)
- SRSエアバッグシステムに関するメンテナンス等の作業はキースイッチをOFF位置にし、バッテリーのマイナス、プラス端子を外した後、3分間以上放置し、エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路（コンデンサー）に蓄えられた電気を自己放電させてから行うこと。

注意： その他SRSエアバッグシステムに関係のあるハーネスを損傷する恐れがある作業時も上記に従うこと。



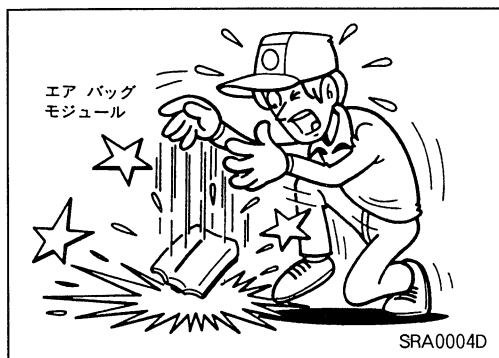
エアバッグ警告灯の表示

エアバッグ警告灯（LED）は、SRSエアバッグシステムが正常な場合は、キースイッチON後、約7秒間点灯した後、消灯する。

下記状態のいずれかが発生した場合はすみやかに点検を行うこと。

- エアバッグ警告灯（LED）がキースイッチONで点灯しない。
- エアバッグ警告灯（LED）がキースイッチON後、約7秒後に消灯しない。
- キースイッチON後、約7秒後に一度消灯したエアバッグ警告灯がその後に点灯又は点滅する。





SRSエアバッグの取扱上の注意 (続き)

性能保持のための注意

- エアバッグモジュールには落下等、衝撃を加えないこと。落下等で衝撃を加えた場合には、エアバッグモジュールを交換すること。
- エアバッグモジュールを90℃を超える高熱にさらしたり、オイル、グリース、洗剤、水等を付着させないこと。(内部が損傷することがあり、システムの信頼性低下につながる。)

作動（展開）後の注意

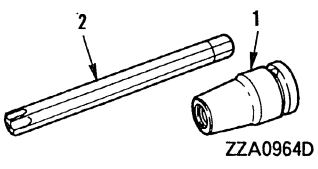
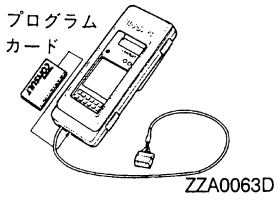
- 発生ガス（窒素ガス）は無害であるが、むせるので吸わないこと。
- エアバッグモジュールは作動後30分は放置しておき、触れないこと。(高温による火傷の防止)
- エアバッグモジュールの分解は行わないこと。(非分解)

作動（展開）後の交換部品

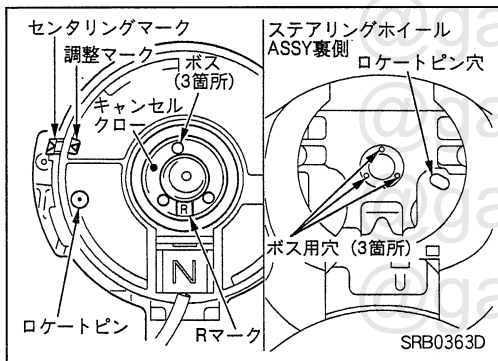
一度作動（展開）した運転席及び助手席エアバッグモジュール、エアバッグセンサーユニットは再使用できない。

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

特殊工具

名 称	用 途	備 考
1. ビットホルダー HT6196 1000 2. トルクスビット HT6215 2000	 <p>ZZA0964D</p>	エアバッグモジュール、エア バッグセンサーユニット取付 用の特殊ボルトの脱着
電子システム診断テスター CONSULT(コンサルト) EG1180 0000	 <p>ZZA0063D</p>	エアバッグセンサーユニット 入力信号の点検

既 設



スパイラルケーブル

概要

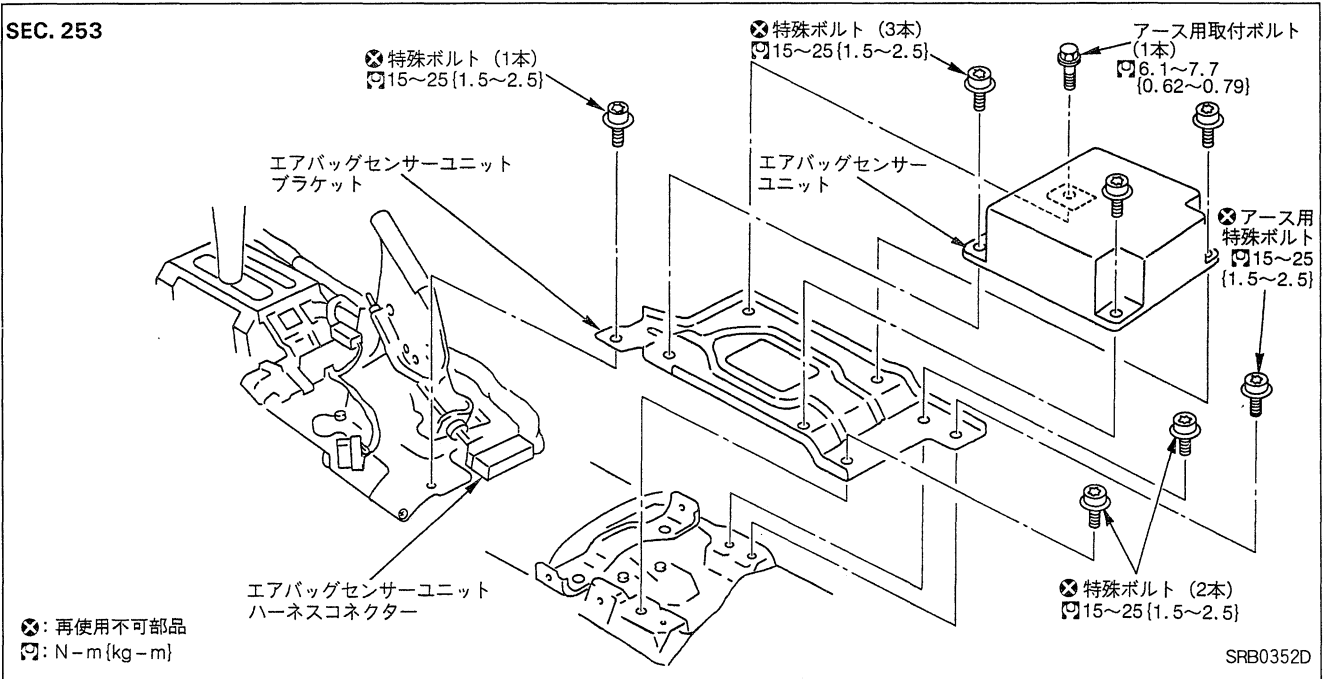
ここでは、スパイラルケーブルの合いマーク変更に伴う取付時の変更点を記載する。その他の整備要領については、「スカイラインR33型整備要領書追補版Ⅱ (A006026) SRS編スパイラルケーブル」を参照のこと。

取り付け

- 取り付けは、下記の作業に注意し取り外しの逆の手順で行う。
- 注意 :
 - ステアリングホイールの取り付けは、前輪の向きが直進状態でキャンセルクロのRマークを真下にし、ボス3箇所とステアリングホイールASSY裏側の穴3箇所を合わせて取り付ける。また、スパイラルケーブルが必ず中立位置にあることを確認し、スパイラルケーブル下側のロケットピンとステアリングASSY裏側のロケットピン穴が一致する位置で取り付けること。
 - 中立位置 (左図参照) ……スパイラルケーブルを右回しに巻締まるまで軽く回し、次に逆回し (約3.5回転) をしてセンタリングマークと調整マークを合わせて止める。(サービス部品は、中立位置を合わせた状態でストッパーで固定されているため、ストッパーを外したらそのままステアリングホイールを取り付けても良い)
 - スパイラルケーブルをむやみに空回しさせないこと。また、巻締まり以上に回転させないこと。(ケーブル切れとなる)
- CONSULT又は、車載の自己診断機能を使ってSRSエアバッグシステムが正常か確認する。
- 作業終了後、キースイッチをONにしたとき、エアバッグ警告灯が約7秒間点灯し、その後消灯することを確認すること。

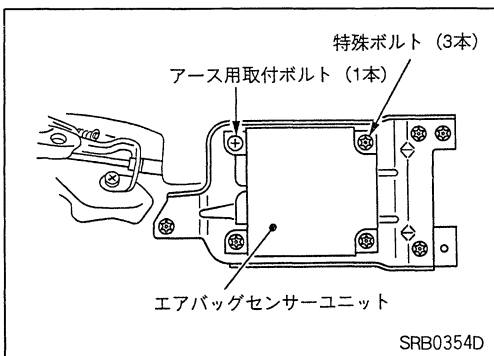
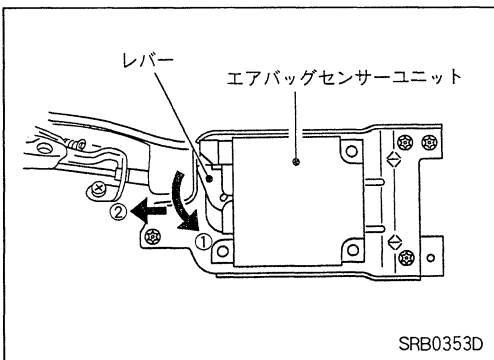
エアバッグセンサーユニット

SEC. 253



取り外し

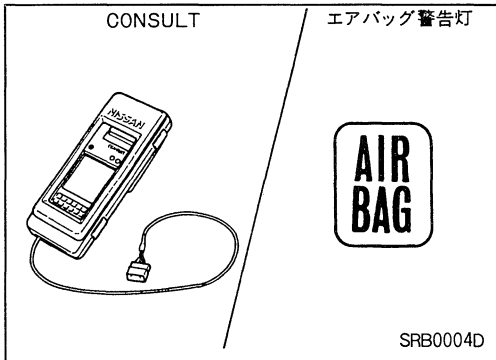
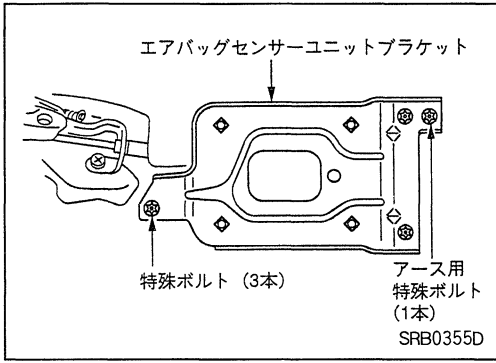
1. キースイッチをOFF位置にしてバッテリーからマイナス、プラスの端子を外し、3分以上放置する。
2. 運転席及び助手席エアバッグモジュールのハーネスコネクタを外す。(「スカイラインR33型整備要領書 (A006022) SRS編運転席エアバッグ及び助手席エアバッグ」の項参照)
3. コンソールボックスASSYを取り外す。(「スカイラインR33型整備要領書 (A006022) BI編インストール」の項参照)
4. エアバッグセンサーユニットより、コネクタを外す。



5. アース用取付ボルト (1本) を取り外す。
6. トルクスビット (特殊工具: HT6215 2000) 及びビットホルダー (特殊工具: HT6196 1000) を用いて特殊ボルト (3本) を取り外し、エアバッグセンサーユニットを取り外す。

エアバッグセンサーユニット (続き)

7. トルクスピット (特殊工具: HT6215 2000) 及びビットホルダー (特殊工具: HT6196 1000) を用いて特殊ボルト (3本) 及びアース用特殊ボルト (1本) を取り外し、エアバッグセンサーユニットブラケットを取り外す。



取り付け

取り付けは、下記の作業に注意し取り外しの逆の手順で行う。

注意 : 特殊ボルトは必ず新品に交換し、規定トルクで締め付けること。

締め付トルク (N-m [kg-m]) : 15 ~ 25 {1.5 ~ 2.5}

- CONSULT又は、車載の自己診断機能を使ってSRSエアバッグシステムが正常か確認する。

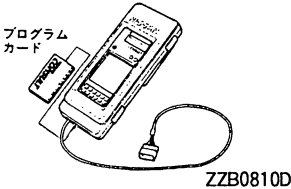
@gabednconfused
 @gabednconfused
 @gabednconfused
 @gabednconfused

作業前注意

故障診断でシステム回路のチェックを行う場合は、エアバッグ警告灯(LED)による車載の自己診断機能を利用するか、電子システム診断テスター・CONSULT(コンサルト)を用いて行うこと。絶対にサーキットテスターを使わないこと。(サーキットテスターの微電流による誤作動防止のため)

準備品

特殊工具

名 称	用 途	備 考
電子システム診断テスター CONSULT(コンサルト) EG1180 0000 	エアバッグセンサーユニット 入力信号の点検	既 設

一般計測器

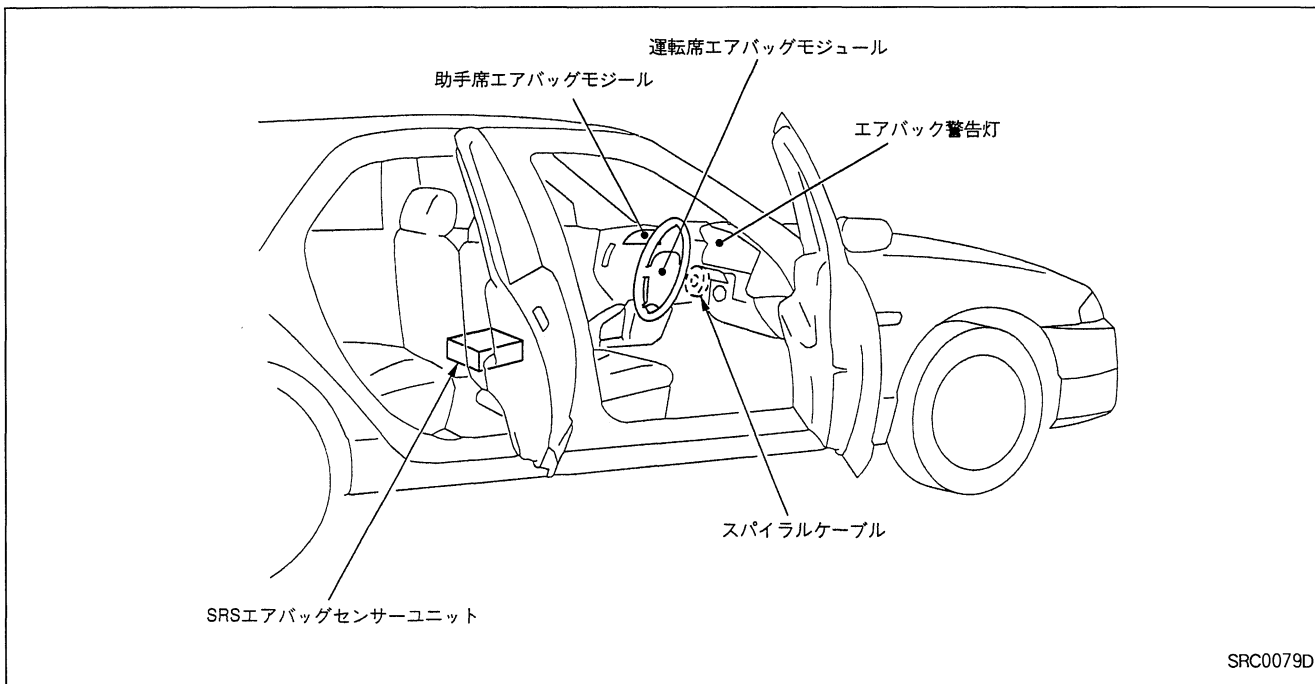
名 称	用 途	備 考
サーキットテスター	電源回路及びスパイラルケーブル点検	既 設

システム概要

- 車両の設定限度を超えた前面衝突(下記注意事項参照)の際に、SRSエアバッグは前席乗員の頭部への衝撃を緩和させるシートベルトの補助拘束装置である。

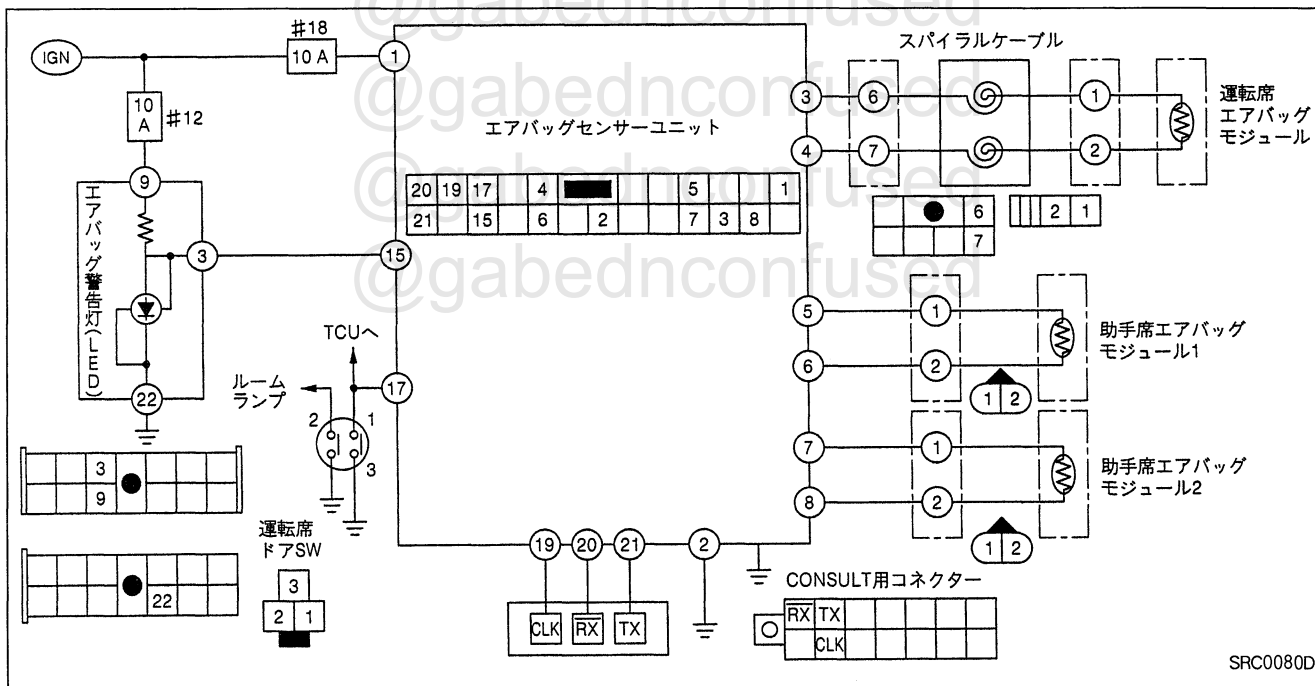
- 注意 :
- 車両の設定限度を超えた前面衝突の際に、助手席に乗員がいない場合でも助手席エアバッグは作動する。
 - 設定限度を超えた前面衝突とは、厚く固いコンクリート壁に車速約20km/h以上で正面衝突したときと同等の大きさの衝撃を言います。
 - 下記の例のときはエアバッグが作動しない場合がある。
 - 前面衝突した場合でも車両設定限度より衝撃が小さいとき
(例：車両と出会い頭の衝突、立ち木又は電柱への衝突など)
 - 車両横方向又は後方からの衝突時
 - 車両が横転又は転覆した場合
 - 一度エアバッグが作動した後の衝突では再作動しない。

構成部品取付位置



SRC0079D

回路図

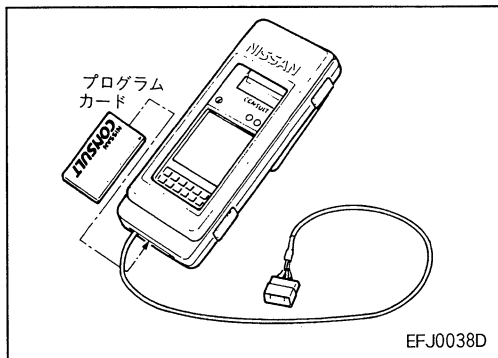


SRC0080D



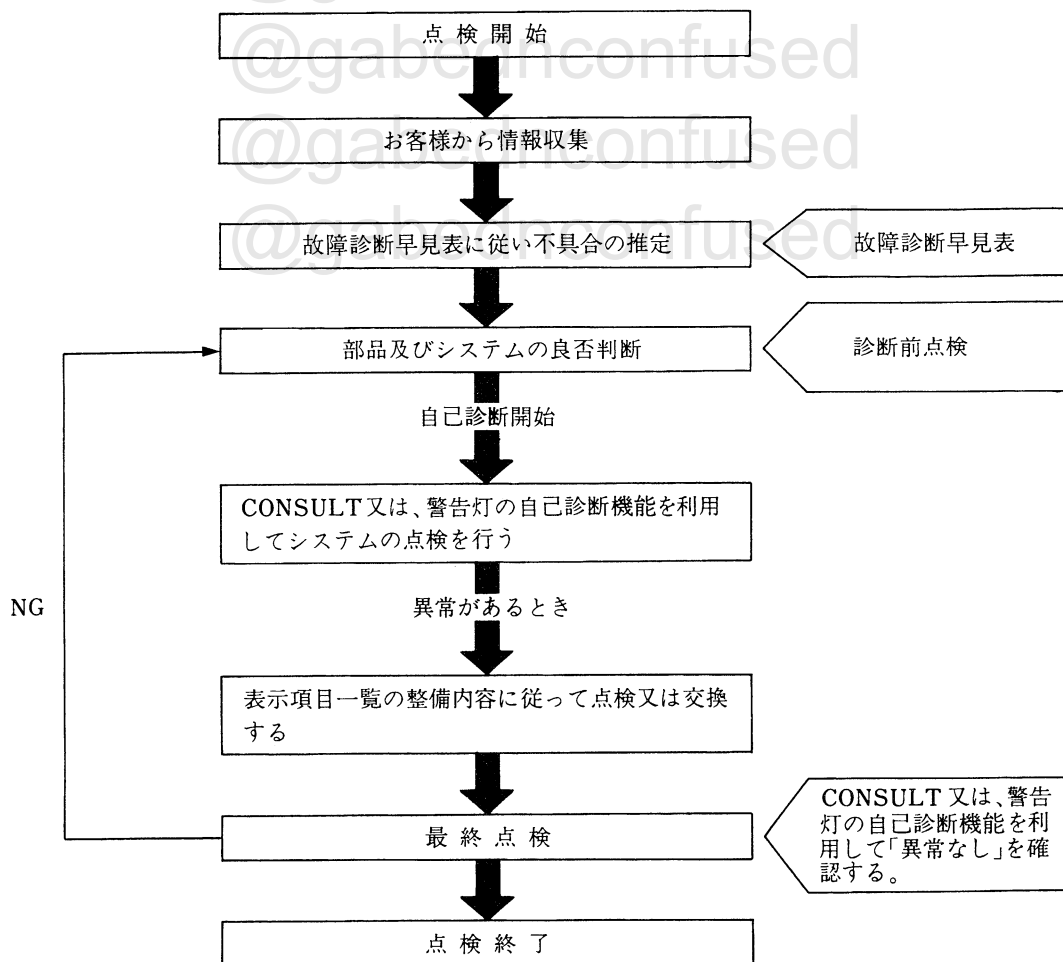
正確、迅速な診断のために

- エアバッグセンサーユニットは両席SRSエアバッグシステム全体の電気系の異常の有無を常時診断し、メーター内の警告灯（LED）を点灯又は点滅させる。



- エアバッグ警告灯（LED）には両席SRSエアバッグシステムの故障箇所（点滅パターンによる表示）を表示し、電子システム診断テスター・CONSULT（コンサルト）に故障、作動データを出力する。

診断フロー



SRA0284D

問診のポイント

- 何が.....車種、エンジン型式
- いつ.....日時、発生頻度
- どこで.....道路状況
- どのような状態で.....走行状態、環境
- どのようになった.....現象

EFJ0340D

正確、迅速な診断のために (続き)
問診

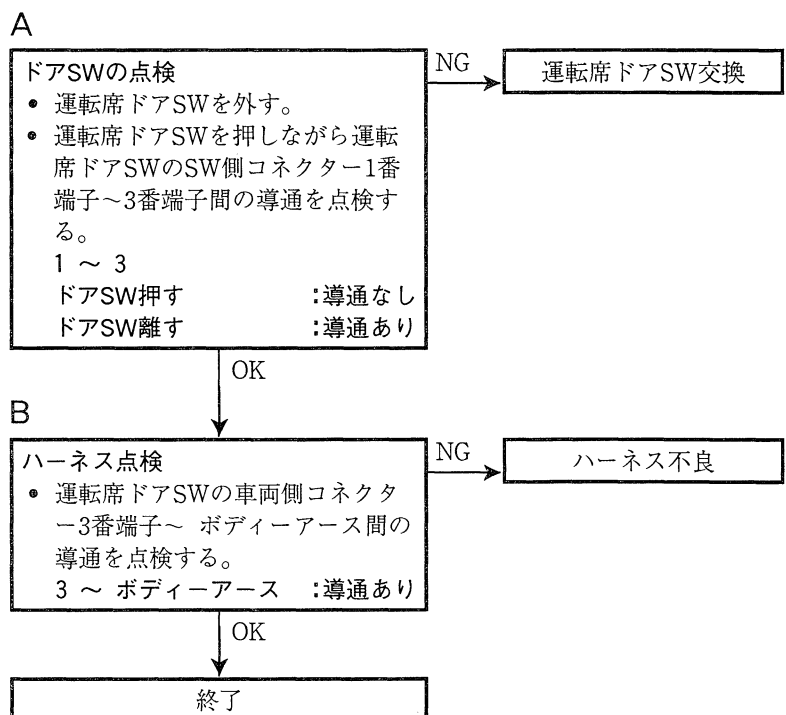
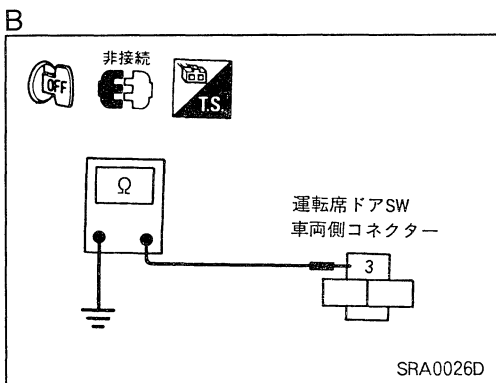
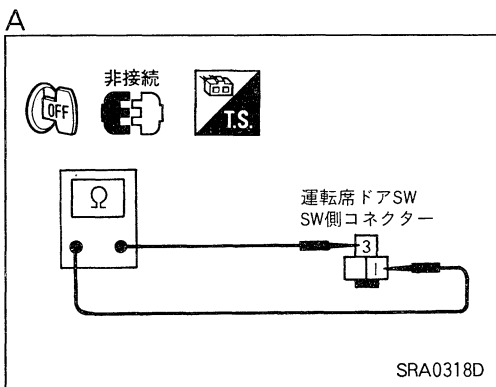
- 不具合に対する感じ方は人により多少異なるため、お客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。
- また、どのような状態のときに、どのような不具合が発生するかをお客様に聞いておき実車確認の際の不具合再現の参考にする。
- 問診シートを用意すると聞き漏らしをなくすことが出来るので活用すること。

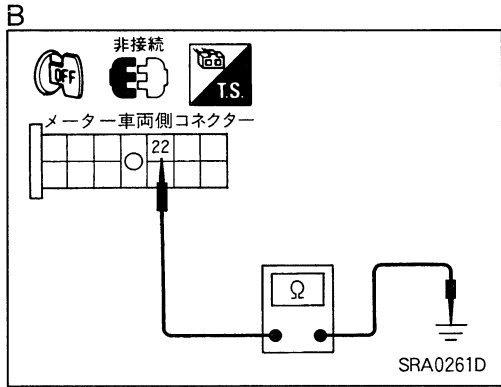
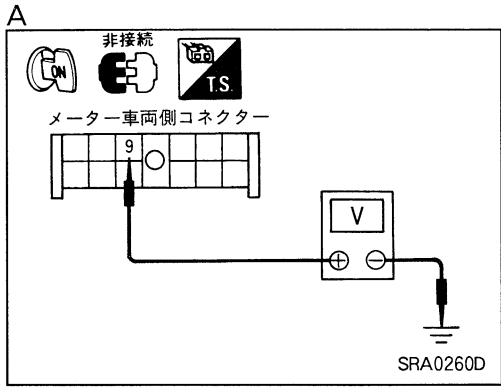
診断前点検

1. 下記部品が正常であるか確認すること。
 - バッテリー
 - ヒューズ類
 - システム構成部品のハーネスコネクターの接続
2. CONSULTを用いる場合、CONSULTを十分に充電し車両側診断コネクタに確実に接続すること。
3. 警告灯による自己診断機能の点検を行う場合は、警告灯（LED）切れ及びドアスイッチの点検を行うこと。

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

運転席ドアスイッチシステムの点検





診断前点検 (続き)

エアバッグ警告灯点検

メーター用ヒューズ(#12)は正常か NO → ヒューズ交換

YES

A
エアバッグ警告灯電源系統点検 NG → ハーネス不良

- コンビネーションメーターを取り外す。
 - キーSWをON位置にしてメーターの車両側コネクタ9番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。
- 9 ～ ボディーアース :約12V

OK

B
エアバッグ警告灯アース系統点検 NG → ハーネス不良

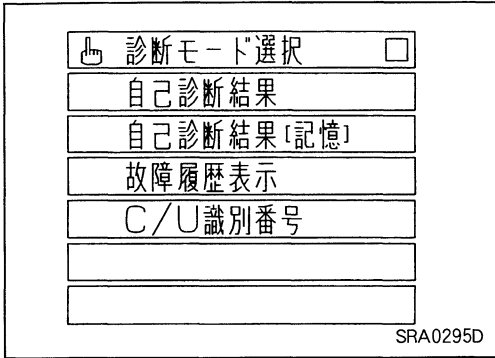
- キーSWをOFF位置にしてメーターの車両側コネクタ22番端子～ボディーアース間の導通を点検する。
- 22 ～ ボディーアース :導通あり

OK

エアバッグ警告灯(LED)は正常か NG → LED交換

OK

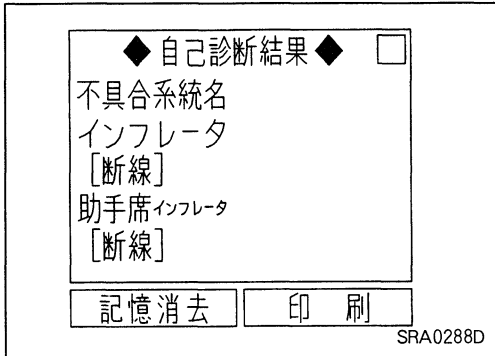
エアバッグセンサーユニット不良



CONSULTによる故障診断

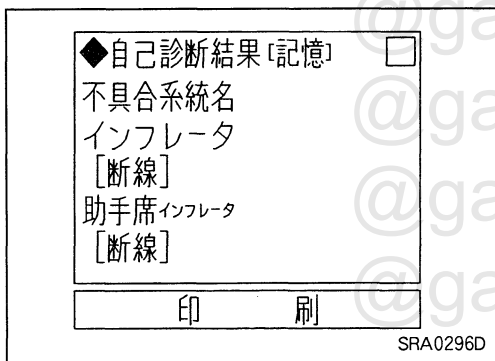
概要

- エアバッグセンサーユニットが判定、記憶している自己診断結果をCONSULTが受け取り、不具合系統名を表示する。
- CONSULTの診断機能には、下記内容による3つのモードがある。



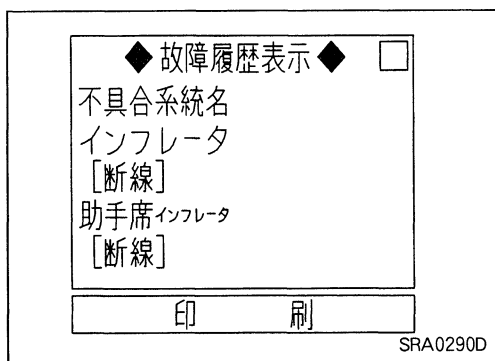
自己診断

現在の診断結果を表示する。ここで表示された部位が修理の対象となる。また、修理後、「異常なし」を表示した場合は、必ず「記憶消去」をタッチし、診断記憶を消去すること。この消去操作を行わなかった場合は、警告灯（LED）をユーザーモードに戻したときに、警告灯（LED）が点滅したままとなる。



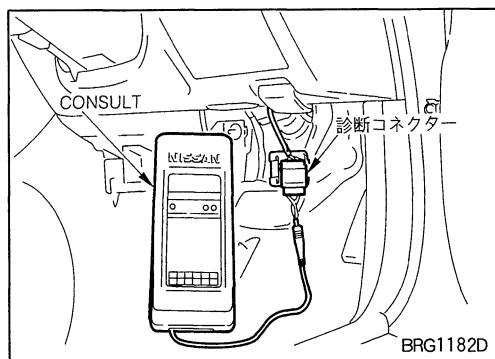
自己診断 [記憶]

エアバッグセンサーユニットが記憶している診断結果を表示する。自己診断では、修理後、「異常なし」を表示するが、ここでは「記憶消去」が実行されない限り、故障部位は記憶したままとなる。



故障履歴表示

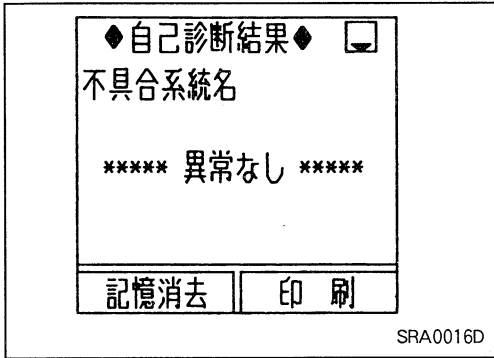
CONSULTによる「記憶消去」を実行すると、過去の記憶は消去されてしまう。その為、前回どのような不具合（故障）があったか知りたい場合に、このモードを使用すると、過去の故障箇所を表示し、参照することができる。



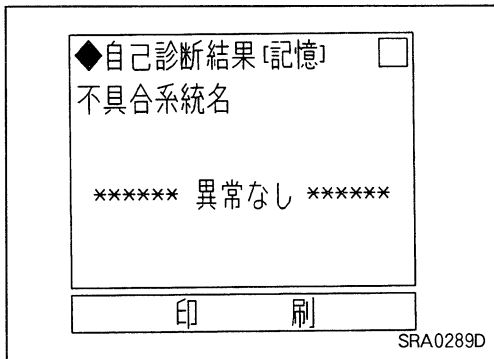
自己診断操作要領

1. CONSULTを車両側（インストロアパネル下部）の診断コネクタに接続する。
2. キースイッチをON位置にする。
3. CONSULTのタッチキー操作でエアバッグを選択する。

自己診断操作要領（続き）



4. 診断モード選択の画面より、必要なモードキーをタッチする。
5. 各モードの自己診断結果が画面表示される。
6. 自己診断結果を基に必要な箇所を修理又は交換する。
7. 印刷するときは、“印刷” キーをタッチする。
8. 修理後、“自己診断” をタッチし、「異常なし」と表示している事を確認した後に、「記憶消去」をタッチする。



9. 一度、診断モード選択画面に戻し、“自己診断 [記憶]” をタッチする。
10. 「自己診断結果 [記憶]」の画面に「異常なし」と表示していることを確認し、診断を終了する。もし故障部位が画面に表示された場合は、表示された部位を修理後、再度8～10項を行うこと。

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

自己診断操作要領 (続き)
表示項目一覧

自己診断項目(画面表示)	異常検出条件	整備内容
****異常なし****	—	—
インフレーター [断線]	<ul style="list-style-type: none"> 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路の断線(スパイラルケーブルを含む) 	<ol style="list-style-type: none"> ハーネス及びコネクターの接続状態を目視点検 スパイラルケーブルの導通を点検 運転席エアバッグモジュール交換 エアバッグセンサーユニット交換 ハーネス不良
インフレーター [電源短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路の電源への短絡(スパイラルケーブルを含む) 	
インフレーター [GND短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路のアースへの短絡(スパイラルケーブルを含む) 	
インフレーター [線間短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路の線間短絡(スパイラルケーブルを含む) 	
コントロールユニット コントロールユニット [33] コントロールユニット [C6] コントロールユニット [D4] コントロールユニット [D7]	<ul style="list-style-type: none"> エアバッグセンサーユニットの故障 	<ol style="list-style-type: none"> エアバッグセンサーユニットのコネクタ接続状態を目視点検 エアバッグセンサーユニット交換 ハーネス不良
コントロールユニット [C1]	<ul style="list-style-type: none"> エアバッグセンサーユニットの故障又は、バッテリー電圧低下 	<ol style="list-style-type: none"> バッテリー電圧を点検する。異常な場合は、充電又は交換をし、正常な場合エアバッグセンサーユニットを交換
助手席インフレーター1 [断線]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター1回路の断線 	<ol style="list-style-type: none"> ハーネス及びコネクターの接続状態を目視点検 助手席エアバッグモジュール交換 エアバッグセンサーユニット交換 ハーネス不良
助手席インフレーター1 [電源短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター1回路の電源への短絡 	
助手席インフレーター1 [GND短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター1回路のアースへの短絡 	
助手席インフレーター1 [線間短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター1回路の線間短絡 	
助手席インフレーター2 [断線]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター2回路の断線 	<ol style="list-style-type: none"> ハーネス及びコネクターの接続状態を目視点検 助手席エアバッグモジュール交換 エアバッグセンサーユニット交換 ハーネス不良
助手席インフレーター2 [電源短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター2回路の電源への短絡 	
助手席インフレーター2 [GND短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター2回路のアースへの短絡 	
助手席インフレーター2 [線間短絡]	<ul style="list-style-type: none"> 助手席エアバッグインフレーター2回路の線間短絡 	

注意 : • 各項目の整備内容の手順に従って修理を行った際、途中で正常に戻った場合は残りの項目は実施しなくても良い。
• 修理完了後は、必ず記憶消去をし、再度CONSULTで確認すること。



自己診断機能による故障診断

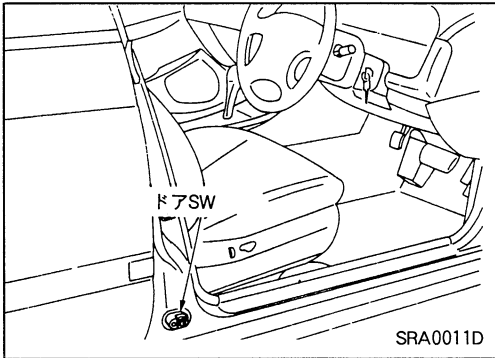
概要

エアバッグ警告灯にはSRSエアバッグシステムの故障箇所（点滅パターンによる表示）を表示する。

エアバッグ警告灯による故障診断

警告灯による表示

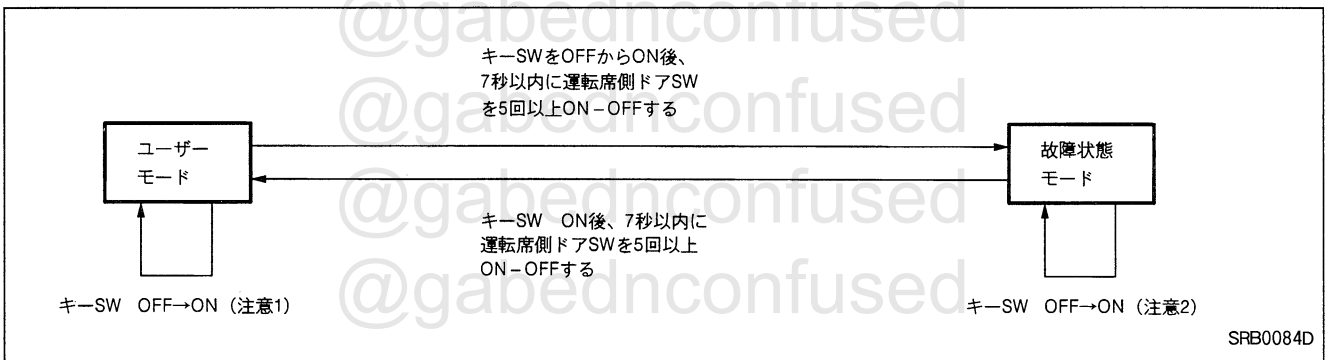
- 警告灯の表示には、ユーザーモード及び故障状態モードの2種類のモードがある。



表示モードの切り換え

表示モードの切り換えはキースイッチと運転席側のドアスイッチの操作で行う。

故障状態モードで故障診断を実施した後は、必ず表示モードをユーザーモードに切り換える。



注意 1 : ユーザーモード時にキースイッチをOFF位置からON位置にすると表示モードは切り換わずユーザーモードの表示となる。

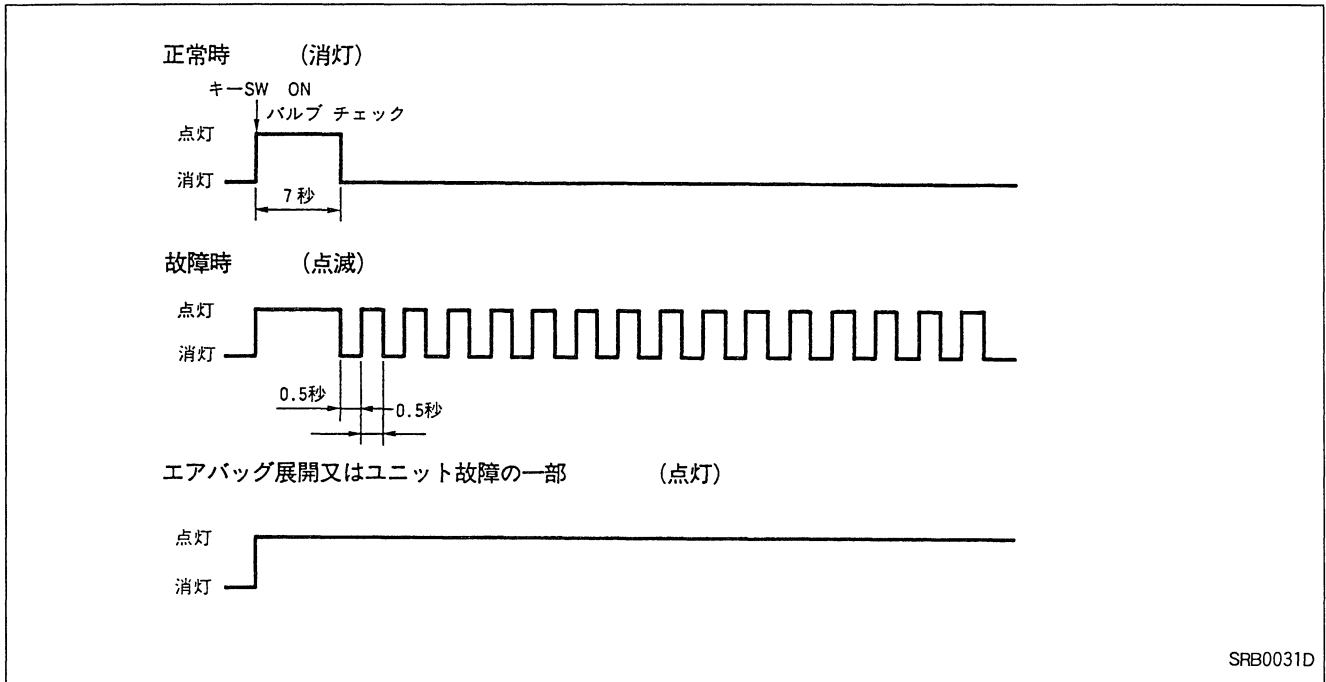
注意 2 : 故障状態モード時にキースイッチをOFF位置からON位置にすると表示モードは切り換わず故障状態モードの表示となる。

ユーザーモード

ユーザーモードはユーザー使用時のモードで、以下の表示を行う。

- 正常 …………… キースイッチON位置で点灯 7秒後に消灯
- 故障 …………… キースイッチON位置で点灯 7秒後に点滅
- エアバッグ展開又はエアバッグセンサーユニット故障の一部
…………… キースイッチON位置で点灯

エアバッグ警告灯による故障診断 (続き)
表示例



SRB0031D

- 注意：
- 故障表示（点滅）はリセットされるまで保持される。
 - リセット操作は修理完了後、故障状態モードからユーザーモードに戻すことにより行われる。

故障状態モード

故障状態モードは現状の故障状態を表示するモードで、下記に示す系統の故障を検出し、故障部位を警告灯の点滅回数により表示する。

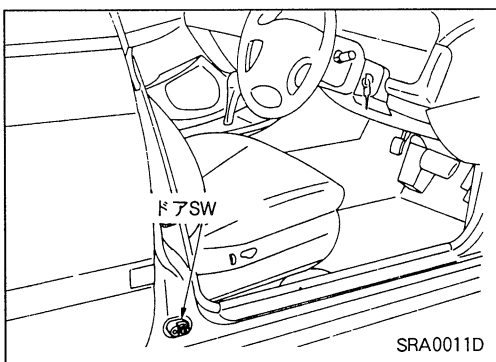
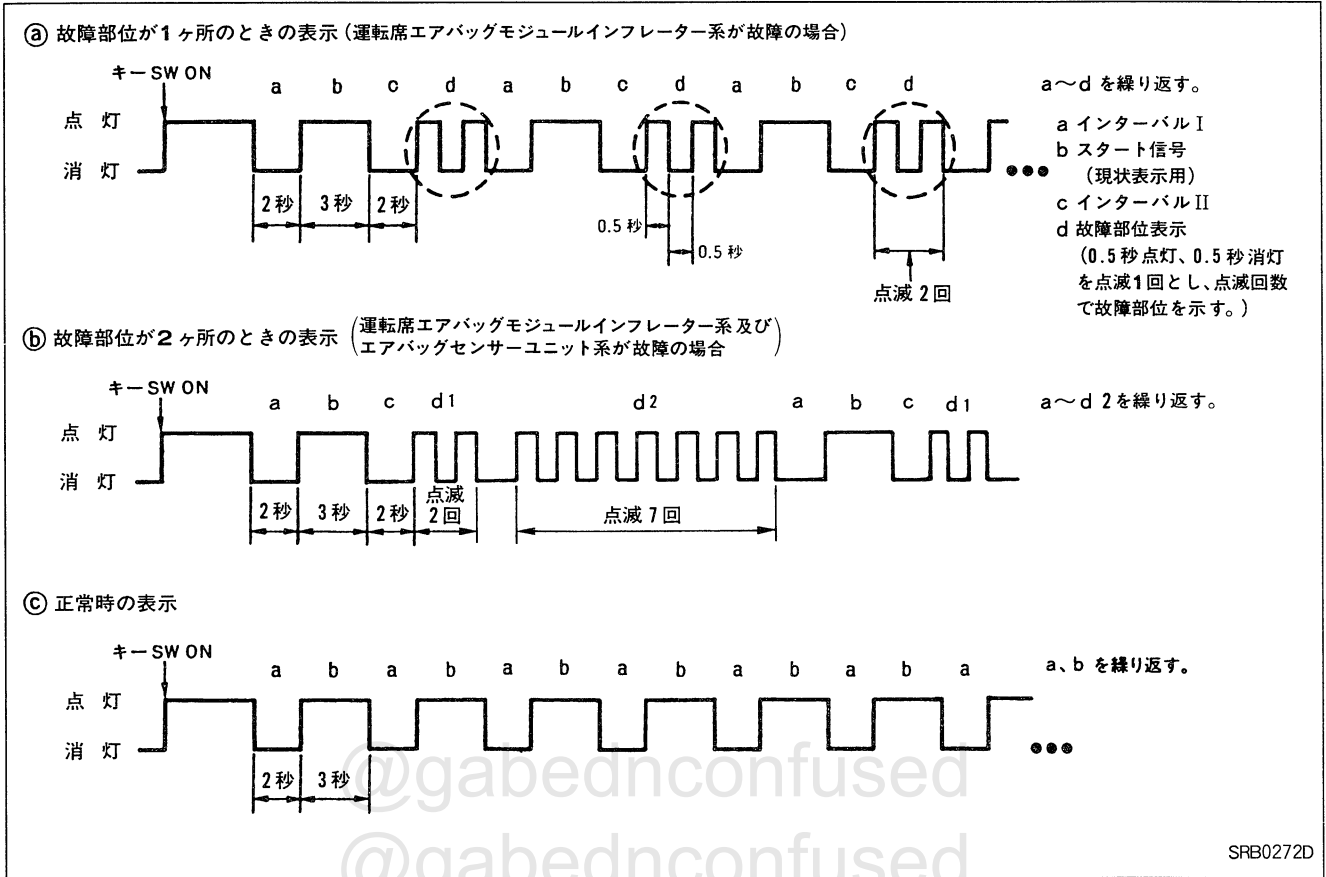
系 統 (故障部位)	診 断 項 目	警 告 灯 点 滅 回 数
—	正 常	点滅なし 7秒 繰り返す エアバッグ警告灯(LED)切れチェック
運転席エアバッグモジュール インフレーター	断線	点滅2回
	電源へのショート	
	アースへのショート	
エアバッグセンサーユニット	ユニット故障 (Gセンサー故障、セーフィングセンサー故障) 補助コンデンサー故障、電源電圧異常 その他	点滅7回
	助手席エアバッグモジュール インフレーター1及び助手席 エアバッグモジュールインフ レーター2	断線 電源へのショート アースへのショート 線間ショート

SRB0364D

- 注意：
- 各項目の修理を行い、修理完了後は必ず記憶消去（リセット操作）をし、再度ユーザーモードで確認すること。

エアバッグ警告灯による故障診断（続き）

表示例



自己診断の消去方法

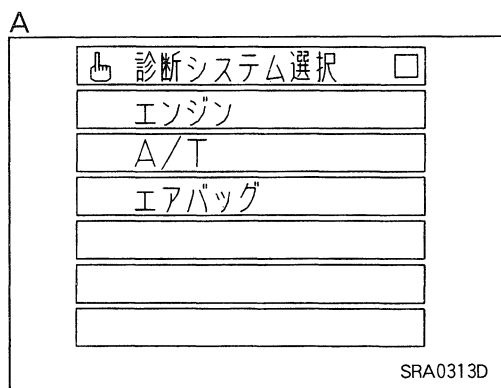
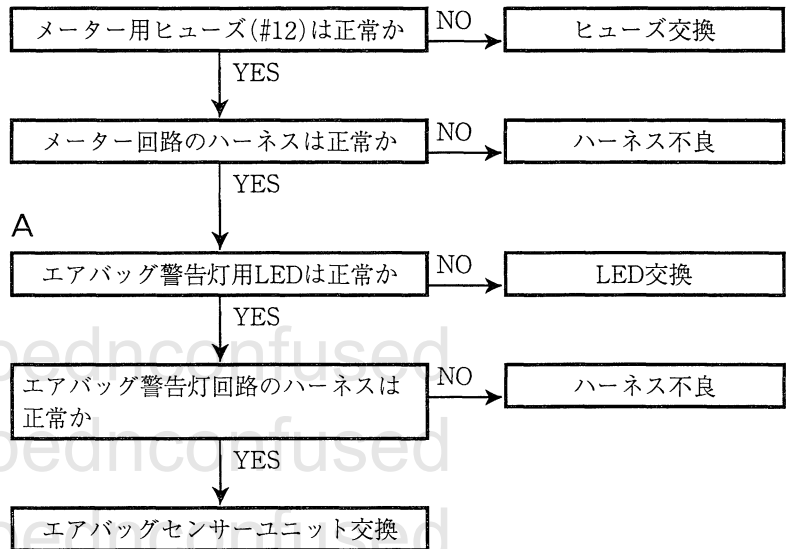
- エアバッグ警告灯による故障表示（点滅）は、エアバッグセンサーユニットの記憶を消去（警告灯の自己診断機能による故障診断では記憶消去をリセット操作と呼ぶ）されるまで保持される。
- リセット操作は、修理完了後、警告灯（LED）が故障状態モードで正常の表示をしているときに運転席ドアスイッチを操作し、故障状態モードからユーザーモードに戻すことによって行われる。

現象別の故障診断
故障診断早見表

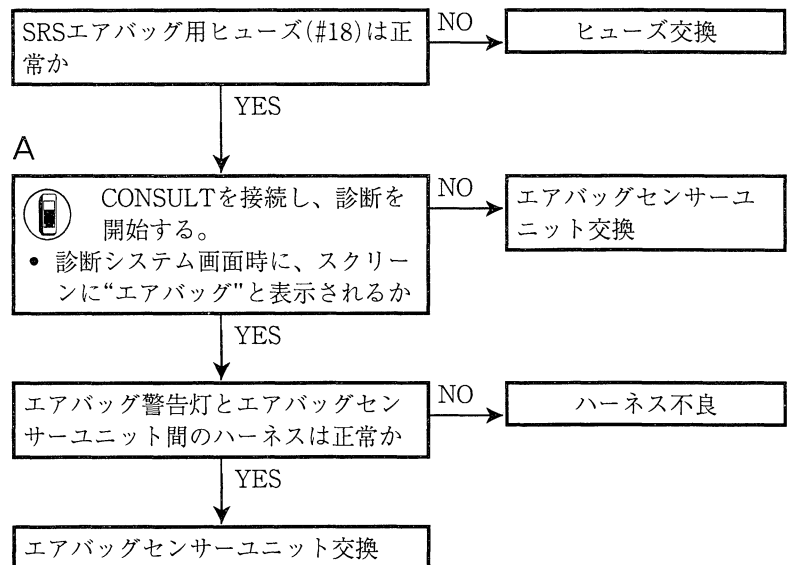
現象	現象別診断番号
エアバッグ警告灯が点灯しない(常時消灯)	現象1
エアバッグ警告灯が消灯しない(常時点灯)	現象2
エアバッグ警告灯が点滅する	現象3



現象1 エアバッグ警告灯が点灯しない（常時消灯）



現象2 エアバッグ警告灯が消灯しない（常時点灯）



A

診断システム選択

エンジン

A/T

エアバッグ

SRA0313D

現象3 エアバッグ警告灯が点滅する

A

CONSULTを接続し、診断を開始する。

- 診断システム画面時に、スクリーンに“エアバッグ”と表示されるか

NO → エアバッグセンサーユニット交換

YES →

B

自己診断結果

不具合系統名

***** 異常なし *****

記憶消去 印刷

SRA0016D

B

自己診断にて、異常無しと表示されるか

故障状態モードにて、異常無しの点滅が表示されるか

NO → 自己診断の結果を基に表示項目一覧の整備内容に準じて、故障部位を整備する。

YES →

注意:作業終了後、必ず自己診断操作要領の8～10の項目を行うこと。
 (「CONSULTによる故障診断」の項参照)

C

自己診断結果 [記憶]

不具合系統名

***** 異常なし *****

印刷

SRA0289D

C

自己診断 [記憶]にて、異常無しと表示されるか

NO → 記憶消去又はリセット操作を行う。

YES →

D

- 一度キーSWをOFFにし、再度キーSWをONにする。
- 故障履歴表示にて過去の故障が表示されるか

NO → エアバッグセンサーユニット交換

YES →

表示項目一覧の整備内容に準じて、故障部位を整備する。

注意:作業終了後、必ず自己診断操作要領の8～10の項目を行うこと。

D

故障履歴表示

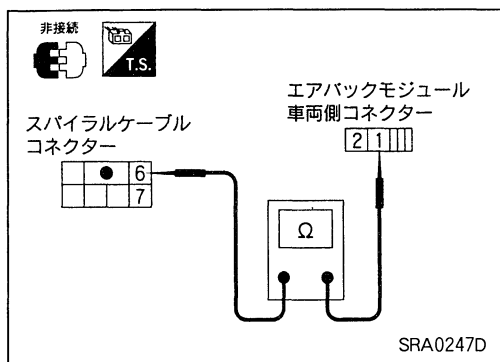
不具合系統名

インフレーター [断線]

助手席インフレーター [断線]

印刷

SRA0290D



構成部品点検

スパイラルケーブル

1. スパイラルケーブルのエアバッグモジュール側コネクタ～スパイラルケーブル車両側コネクタ各端子間の導通を点検し、異常がある場合は交換すること。

1 ～ 6, 2 ～ 7 : 導通あり

@gabednconfused
 @gabednconfused
 @gabednconfused
 @gabednconfused

M E M O

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused